



Handwritten Japanese characters in vertical script, likely the title or author's name, enclosed in a simple rectangular border.

Library label with the following text:
79
3869
96



利 3942 卷 30

3869 96

大正七年三月寄
室井平藏氏贈

かち枕

にくと



枕肩のよむかた
臭いで臭れたかぶとん
象ちんを洗家の物だん用
混まじれのきいほや
母をりどきり清ぬき
まのその風よ研さす
お身たぐいの髪すのき
合みぎりふりふり
かやで髪梳^ス_ク^ス_クのたき

あきしうや

うしよと一人^ニ祓^クト
身^ノとのま^ニりふ^キさ^ニさ^ニ
書^ク物^ヲが^らち^カ嫁^ニあ^り
冷^ク少^シ行^ハ生^ル庭^ノ柳^ノ
せ^りの^カもの^ノ仕^ル當^ノ不^レ
名^ヲを^サ文^ヲ科^トし^テ秋^ノの^高
西^セ湖^イの^コ外^ニ又^チ志^スぐ^レ見^リ
月^ノの^中さ^ん乃^リ東^山
ら^しの^書者^ノ所^ニ在^ルの^傍

うせんくろく
飯^ツ喰^ハい^よ知^ル仲^ノ指^ノも
娘^ノ嫁^ノ娘^ノ姑^ノり
子^ノ身^ヲく^ハハ^テ食^テ仕^舞
弱^ヨの^先ハ^出く^もぬ^ふ
目^ヲ初^メ仕^シム^金一^屋
赤^クく^ハ仕^レ上^ノ御^工
古^クい^痛云^ハ探^ルも^ぬ走^レ者^ト
く^らの^身れ^たる^身放^シ一^考
物^ヲ来^ルと^ちら^るる^者が^らし

終日日記

鳥の空の中は土をこり
おろろろろろろの枝
鋸ノコまがけろる芝草
脊中よりづろるん店
あでいささる清あさ
そのほろく 九十川
勢セイよまて出ル末合羽
樹子人のあるまま
とん倉いんつぬと倉の家

くらくと

人つ進歩アルッあつ方柳
あつらうろろにまい踊り
あつらうろろつるる志
風で風知る風見板
船の命とまろるる
乃吹掃と懸ハシく悪
皆強ツヨクそつか去儀入り
上よみかろよまつる資
足世付キと足よみ作連

是つゝ奴

好い男とや振ってくりヨ
厄乃たんとしふ来をそと
功ゆへ死ぬる 赤グいの
年中らんを 年子産ム
清家の枕が二つみこ
灯をりけと母親ハ起キ
鶴屋斗りの八百々町
医志でるれを人教し
森まゝと起キて揺ル声

サ林大ををるる 大名
せつらん出れば五寸香
桐の羽であましく掃ッ
公より名でやメッあまきん
茶もいんでもあまきん
舞のきつる 大ひい
たんその踊る 石
ヶ 枕ふいそらハ 舞ス
くげ又去けし 海士アの多
較らるる人目ふやぐ 鶴屋

かりとくに

むらとこの言のーあは那
ふで明り後で他人をし
法もすをあやゆる百合のむ
きふいの物もあふるだて
猪ル気もあやゆる山寺
ぬこのおいふ奥家老
やゝ母のぬあはるら
鞍ツラくふ来ルうーう帯
あふあはれをさる日本

の月あはる

叩タク子の言ルむんあはる人
家内が秋であふ子代
ゆゑこはぬハ付ケぬ嫁
人のあぬ目をおハかりと
現今の柱を中ツ年仕也
あのおらじたふこがん
えらぶ一の遠入ル嵐か
盗キふ出ルりせとあ
他園もあはるふとこ空

斤かつて

きどりの起^ヤー 釜の夏
番^{ゴニ}荷ふきり 油筒^ツ
葉^ク店^クよる 孫の中
借家の井戸でつらる酒
船とまら^ん喰^るは伯文
傍のけらこふ 弱^るる
でんぐく^る葉^の救^桂
船^の森^の目^立つ中^子代
虫^を仕^こら^ハ取^で取^取

史^ハカ^ク

伯母の蓋形も^カカ^イナ
江戸で^カカ^ハツ^イ取^中
身^のい^る病^を夜^小老^を知^リ
常^きき^いる^カ川^ハ 宗^ツ
通^のハ^カイ 無^法の^繪
徒^人の^研ふ^ハ文^粉
笑^いあ^らわ^ぬ物^ハカ^ク
上^るり^カカ^ン西^東
う^どん^も細^ウ糸^もば

浮世なかり

侍りよまゝそそぬ麻子ゆい
骨^{ビシ}虚^{キヨ}て死^シし大黒屋
聖^アス利^リル花^ハも車^{クルマ}切^キ振
孝^{コウ}りよそ母^{ハハ}の^ノ^ノや
麻^マッた^タく端^ヘもお^オつ^ツと
う^ウら^ラま^マて^テ半^ナと^ト無^ム心^{シン}状
ま^マより^リ宿^{ヤク}の^ノ花^ハみ^ミけ^ケい
ふ^フキ^キ花^ハも^モ遠^{トウ}い^イど^ドや^ヤま^マい
一^{イチ}の^ノんで^ノま^マら^ラんと^ト細^{サイ}工^{コウ}

ざんぐくと

ま^マご^ゴも^モの^ノ母^{ハハ}の^ノ家^カの^ノま^マ
さ^サさ^サい^イご^ゴの^ノぞ^ゾく^ク綿^{ワタ}が^ガり^リ
几^イ中^カの^ノ名^ナの^ノぐ^グを^ヲ摺^スて^テけ^ケ
嫁^ケの^ノ年^{トシ}入^イる^ルう^ウう^ウけ^ケ
そ^ソう^ウ麻^マの^ノと^トち^チお^オう^ウく^ク
考^{カウ}ら^ラる^ル下^ゲ女^メの^ノ恋^{コイ}物^{モノ}
や^ヤ宿^{ヤク}も^モ宿^{ヤク}を^ヲ百^{ヒャク}千^{セン}も
幕^{マク}よ^ヨあ^アら^ラる^ルさ^サ東^{トウ}福^{フク}寺^ジ
脊^セへ^ヘ夕^{セキ}風^{フウ}云^{クニ}下^ゲ子^シあ^アや

志んやうし

加かえの表のまゝの意
海棠^{ドウ}枝^エ一^{ヒト}度^ト下^カ屋^ヤ
女^メ房^{ボウ}のわん^{ワン} 女^メ成^{セイ}容^{ヨウ}
蓮^{レン}池^チ持^チて 尼^ニ乃^ノ龍^{リウ}
そ^ソ本^{ホン}知^チら^ラば^バの^ノ理^リの^ノ意^イ
本^{ホン}の^ノ母^ボど^ド々^々と^トそ^ソて^テ居^イる^ル
臺^{ダイ}の^ノ下^カへ^ヘ移^シる^ル又^{マタ}福^{フク}枝^ジ
懸^ケ性^{セイ}も^モあ^アり^リ我^ワら^ラ二^ニ人^ニ連^リ
筆^{ヒツ}あ^アゆ^ユじ^ジ横^{ヨウ}一^{ヒト}さ^サき

志んやうし

追^{ツイ}て^テい^イの^ノ所^ノに^ニ居^イる^ルが^ガ梳^ス
ぐ^グぐ^グの^ノ年^{ネン}を^ヲん^ンを^ヲら^ラう^ウう^ウ
女^メ史^シ、同^{ドウ}一^{ヒト}梳^ス并^{ヘイ}
松^{マツ}の^ノ足^{タビ}を^ヲ付^ツく^ク 岨^{シメ}
あ^アら^ラの^ノ路^ロに^ニ有^アら^ラん^ンを^ヲ
月^{ツキ}と^ト白^{シロ}の^ノ雲^{クモ} 志^シあ^アい^イ
形^{カタ}を^ヲ梳^スリ^リ音^ネを^ヲつ^ツた^タり^リお^オ招^メ
ま^マる^ルま^マの^ノ靴^{カブ}の^ノ聲^{コエ}を^ヲき^キ
あ^アら^ラも^モ知^チら^ラぬ^ヌお^オの^ノま^マ

ツ、ちんき

うーでまっこと三すね
ぢやくちんきくじまのいふ
ちのぢりりにを叩り
葉のゆよんゆる入^ト瘧
日車一極——出合者
ちんきの袖より^物
鞠の師匠のせんき持
ゆりつとありし有
清くさくくさくめう

新のりに

ちんきの借ふちんき
ちんき一家のちんき
さそい^{カ子}の^{ミラ}秋の世
ういで^{サキ}ちんき^守
ゆだちんきをぬ^出
ちんきよまさんちんき
ちんきふけちんきの町
ちんきひがちんき止^千張
ちんきよの袖ふ^基ちんき

ごきうさんよ

十ヲらひくはく繪のひ
清できうごんほへる士
ちゆゑの知れり 旅
帯もあびく屍もとり

かひがたうら

足さきりせて竹を細メ
ソびきののりぬるはらのり
舞年の物ぬきまほては
天^アの道^{サカ}津^{ホコ}一^フそ成^レ

ア、ま、い、よ

史^トの志^シけり志^シぬか
草^ノ、射^イル矢^ハといらん止^マ
墓^ノ石^ハの垢^カとそい^ハける
女^ノ身^ハは梳^スりせぬあ
さ^ハん^ハぱ^ハり^ト

そ^ハぬ^ハ強^ク少^ク嫁^シ町^ノめ^シだ
姑^ハハ^ハの^ハ持^リ糸^ハが^ハの
眉^ハぬ^ク毛^ハぬ^ク鼻^ハ毛^ハぬ^ク
汗^ハの^ハ利^ハぬ^クち^ハ小^ハ性^ハ

時むり

法師のさきさきなる蓮女
狐のまじむる居の椽
村は理今ひく掛り人
妹のまじりし葉でまゐる

時むり

雪の舞うる街
藤のまじりぬのいし
けしりゆる火吹竹
くらりまざり乳をい

とち

人形もたをる約ちま
後のままれハ市は橋
おきりこぶしは笑り顔
河内海いのらんぬり

とち

あまきよはらげの夜の月
豊玉の葉のびるさ
親をいんをり民こし
こしにらちのめづら

口おし

下戸よふ多々フキトウの差
小判であがらねる惣嫁
同少くあへそぐり
常いまけとあはる月新
うさゝ高小

ノリ地でうさゝいちぢ
竹引の場へさあふた
大及ね込ちんつきせ
一丁もつくく茶うり

日モラのくれ

おぢりめん作ら凡呂世
とやげのむハ造カ麻カ飛
嫁入の門へ入るカ凡中
鞠場へ追つて無印如就

そろくと

ソのきをぬえ入るを
邦のむふなるソセと
ふるよる身ヶ京道一
何ぬをつげる汗タ印キ

らんりし

及よ入しり西川伝
郵^{カキ}屋よりんで世ああ
節高のう株入給ふと
めいしとと産店店

賑く

船屋があおれ^ル継^ギ弁系
千ス百そおあハめ^キたん
あやいり飯^り八百を
老^ニ夫^ニさ^ニ向^ニの^ニ遠^ニ枕^ニぐや

らんりし

子^リ房^ノの^ニ母^ノの^ニ
麻^ヲ幸^ガの^ニ松^ノは^ニ大^ニ
縁^ノの^ニれ^ニあ^ニ遠^ニ

らんりし

仔細を^知る^ル人^ノを
肝^ヲ心^ヲ地^ノ草^ノを^知る^ル人^ノ
芥^ノあ^ニい^ニの^ニ切^リ
を^知る^ル人^ノを^知る^ル人^ノ
書^ノの^ニあ^ニの^ニ


~~~~~

カ...

りくく七すこの鹿イ店  
網をあらさ八の鹿と  
カハハ<sup>ボウ</sup>子ル又厄子  
ありのこ中からまはな

くましき

活をうくくくあ  
本屋あさちうと何えせ  
妻のままじニ一たえ  
結の出、世又又あ

~~~~~

りくくこの鹿んを念
新の周くまんもやうき
あさあさあわわ水道
ええのらん中から子
あさあさあさあさあ
あさあさあ子にあさ
あさあさあさあさあ
あさあさあさあさあ
あさあさあさあさあ
あさあさあさあさあ

たしなむ

おぼつかいふらぢぢぢ

うかのぬぢぢぢぢぢ

二階の麻のむらぢぢ

は從ハぬぢぢぢぢぢ

ふぢぢぢの煙ぢぢぢ

後之怖のすぢぢぢ

か下ぢぢぢぢぢぢ

信ぢぢのぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢのぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ

ぢぢぢぢぢぢぢ


~~~~~

田お牛一の指しこり

船とくそくらさる船

~~~~~

世をり〜とくそくらさる

物〜形せぬ物ら〜

~~~~~

り〜物せぬ物ら〜

家母〜始〜

病〜り〜の指しこり

~~~~~

形も〜事終て〜

ま〜に形せぬ物ら〜

え目うた〜り〜

性根ら〜れ死〜

中目子終〜た形

後〜人可〜後

本書入方母子の

年〜の月同〜

ら〜ら形せぬ物ら〜

ざら〜
 挑打打の後のなり
 丸印〜いす〜た〜こ香
 死〜ああや〜おんをり
 踏〜のりけ〜ま〜の何
 入〜お切〜け〜り
 梅〜ゆ〜り〜舌通る
 皆〜中〜種〜あ〜酒の酔
 一〜日〜何〜く〜ろ〜い〜と〜神ナニ
 何〜の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

うら〜ん〜せ〜ん〜ん〜ん
 ら〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
 ち〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
 さ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

母のちの子の確〜み
 保〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
 口〜の〜ら〜ん〜ん〜ん
 浪〜子〜と〜ら〜ん〜ん〜ん〜ん
 鹿〜川〜の〜老〜又〜お〜筆〜書〜し
 積〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
 大〜佛〜の〜

こら〜

松の妻掃 山松川
木地神のな〜篇
解くま〜い〜
病ま〜子のぬ〜
五金の末の信しん〜
ちり〜

水みづ〜
神い〜
先〜

こら〜

初〜
眼まなこ〜
ろ〜
手て〜
起た〜
灯あかり〜
五ご〜
つだ〜

大正
支那

大正
支那
馬と云ふヤハ弱味生
草と云ふヤハ味生
牛肉と云ふヤハ味生
出と云ふヤハ味生
郭ホト、キスと云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生

味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生

味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生
味と云ふヤハ味生

己りしよし

内へはあつたての井

踊りてくはるゝはあ

くうんきんねきん

~~~~~

歌をよみて授けと愛

序の曲よめる

京の都押入の

舞臺のあつた

洞のあつた

~~~~~

実のあつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

か見系 あ白

比加減 あ白

高面がみ 折白

五文字并井 あ白

か七枕 呈附

日力草 あ白

五文字附

日一足冠 あ白

折白及之探

折白三用 あ白

たのみの礎

中文字七文字の初を
あはは

耳縁子

点共の好物 あ白

續耳勝子

口信大極 あ白

折白色系集

あはは

折白龜鑑

教方秀逸 あ白

豊白秀吟集

里季教白 あ白

倚鹿好 あ白

列子評 折白

繪巻梅乃都 三冊

絶波名可衣
吉田了雨輯

日 橋乃層 二冊

木沢荻角輯

日 蛙囊抄 二冊

日作

日 道遠集 二冊

柳原社笛

日 画賛輯 三冊

豊原庸丈

池詣師走囊

附録池詣式信
あはは

日 今官州

来山 あ白

日 門柳曲

中野房 あ白

日 浄撰被

日右

日 蜂媒集

日右
あはは

穿道珍話

口合 あ白

二翁 あ白

あはは

